

日点委通信

No.4 1988年11月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1988年8月26日・27日の両日、大阪市北区の山西福祉記念会館において、第23回総会を開催し、次の事項を協議した。出席委員は、本間会長はじめ18名、事務局員4名、オブザーバーは15名であった。

1. 点字表記法の検討

日本点字委員会が、現行の『改訂日本点字表記法』を発刊して、既に8年有余の歳月が経過している。この間、点字を常用する視覚障害者や点訳奉仕者、あるいは視覚障害教育や点字図書出版関係者などから、この『改訂日本点字表記法』の解説が不十分な点等について、多くの意見や要望が寄せられている。こうした状況を踏まえて、日本点字委員会では、第20回総会以降、点字表記法をより系統的でより活用しやすい内容に整理し直すべく検討を重ねてきている。今回は、第22回総会以後、東北・関東・東海・北陸・関西の各地域で検討してきた成果を基に、主に次のような事項について協議した。

①現行28字の特殊音を増加するかどうかについて ②文中注記符・詩行符等の記号とその用法について ③豊語符の用法とその取り扱いについて ④外字符を前置して表記する語の範囲を拡大するかどうかについて ⑤点字表記における促音化の歯どめについて ⑥助動詞「う、よう」及び、形容詞のウ音便を長音表記にする理由づけについて ⑦自立語内部の切れ続きについての基本的な扱いどころについて ⑧漢語名詞+する、副詞+する、などの切れ続きについて ⑨「として、にして、をして」等の切れ続きについて

2. 『改訂日本点字表記法』の再改訂について

1990年は、我が国の点字制定百周年に当たる。この点字制定百周年を機に『改訂日本点字表記法』の再改訂版を刊行することにした。再改訂の基本方針は、現行の点字表記法の不都合な点を正すという程度の手直しに留めることができることに確認されている。これまでの総会で協議・検討された事項を基に、編集委員会を設けて、具体的な編集作業に着手することとした。編集に当たっては、点字表記法の「規則」と「解説」とを分け、用例を増やすなどして活用しやすいものにまとめることになっている。編集委員会は、阿佐博、加藤俊和、金子昭、木塚泰弘、小林一弘、下沢仁、当山啓、藤野克己、藤森昭、水谷吉文、宮村健二の11名で構成することになった。

3. 委員の交替について

盲教育界代表委員であった目黒伸一委員（福島県立盲学校）の後任として、全日本盲学校教育研究会から宇和野康弘氏（宮城県立盲学校）が推薦され、残りの期間を委員として担当することになった。

4. 國際標準化機構（ISO）への委員の推薦について

国際標準化機構のリハビリテーション機器専門委員会から、点字読み書き機器の部会に、我が国の専門家を派遣してほしい旨の依頼があり、日本点字委員会では、木塚泰弘委員を選出し、日本盲人福祉委員会を経由して推薦することにした。

5. 『日本の点字』第15号の発行予定

点字制定百周年に向けて改訂作業を進めている表記法再改訂の中間報告という形で、『日本の点字』第15号を発行する。点字表記法の規則編に当たる部分を主な内容として編集し、1989年9月頃に刊行する予定である。

日本の点字制定百周年記念事業について

日本点字委員会の第22回総会において発足させた記念事業検討委員会では、点字制定百周年を記念して記念切手の発行を計画し、文部省・厚生省の両省を通して、郵政省にその実現方を要請した。百周年記念事業の今後の推進に当たっては、我が国の視覚障害関係団体の総意として実施できる組織と体制とを整えるべく、日本点字委員会が関係団体に働きかけていくこととしている。

国際標準化機構（I S O）における 視覚障害者関係機器・記号の標準化

国際標準化機構（International Organization for the Standardization）は様々な分野での国際的な標準化を推進する、J I S（日本工業規格）の国際版ともいえる機構である。日本は常任理事国として日本工業標準調査会（J I S U）が加入している。I S Oには、現在、約200の専門委員会があり、障害者関係の専門委員会としては、T C 168《義肢装具専門委員会》とT C 173《リハビリテーション機器システム専門委員会》とがある。

1988年3月、T C 173専門委員会及びその下部組織のS C 4（コミュニケーション機器）分科会がストックホルムで開催され、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション機器委員長の加倉井周一氏（帝京大学リハビリテーション科助教授）が日本代表として参加した。氏は、同医学会が車いすのJ I S規格作成に携わった1970年代後半から、同専門委員会の委員となっている。

今回の会議において、視覚障害者関係の二つの作業部会に日本から専門家を派遣するよう強く要請された。一つは「点字読み書き機器」の部会で、最近の情報機器の進歩に伴う点字とコンピュータのインターフェース、文字コードの標準化などを取り扱っており、もう一つは「歩行者のための触地図と聴覚・触覚記号」の部会で、障害者の社会参加を促進するための公共施設、道路等の地図や標識の標準化に関係している。

加倉井周一氏によれば、このT C 173は、他の専門委員会とは異なり産業界からの支援がほとんどなく、これまで約10年間、もっぱら医学会の各専門家の個人的な努力の積み重ねのみで対応してきた。しかし、もはや限界に達しているとのことであり、我が国としても各団体並びに関係省庁と協議して、積極的にこれらの委員会に専門家を派遣し、情報交換を図る必要がある。

そこで、「点字読み書き機器」の作業部会には日本点字委員会から木塚泰弘氏を、「歩行者のための触地図と聴覚・触覚記号」の作業部会には日本盲人社会福祉施設協議会から加藤俊和氏をそれぞれ選出し、日本盲人福祉委員会を推薦母体として派遣することになったのである。

~~~~~ 頒 布 図 書 案 内 ~~~~

日本点字委員会では、現在次の図書を販売しています。

| | (点字版) | (墨字版) |
|---|---|--------------|
| 1 | 『改訂日本点字表記法』 1200円(送料無料) | 600円(送料200円) |
| 2 | 『点字数学記号解説』 1200円(送料無料) 『点字数学記号解説別冊』 3800円(送料無料) | 600円(送料200円) |
| 3 | 『点字理科記号解説』 1200円(送料無料) | 600円(送料200円) |
| 4 | 『日本の点字 第9号』 300円(送料無料) (コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他) | 300円(送料170円) |
| 5 | 『日本の点字 第10号』 400円(送料無料) (国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他) | (品切) |
| 6 | 『日本の点字 第11号』 400円(送料無料) (現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他) | 400円(送料200円) |
| 7 | 『日本の点字 第12号』 400円(送料無料) (外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他) | 400円(送料200円) |
| 8 | 『日本の点字 第13号』 500円(送料無料) (複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他) | 500円(送料200円) |
| 9 | 『日本の点字 第14号』 500円(送料無料) (「改定現代仮名遣い」原文 点字表記に関する調査報告 その他) | 500円(送料200円) |

点字版の『点字数学記号解説別冊』はサーモフォーム印刷によるもので、数式等の形式をも含めた墨字数学記号と点字数学記号との対照表が主な内容です。墨字版の『点字数学記号解説』にはこの別冊分の内容も含まれています。

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

御注文は、いずれも下記日本点字委員会事務局へお願ひいたします。

〒169 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(209)0241番

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 (郵便振替 東京0-42820)